

株主メモ

決算期 3月31日
定時株主総会 6月
公告掲載方法 電子公告（ただし、電子公告による
ことができない事故その他やむを得
ない事由が生じたときは、日本経済
新聞に掲載する方法により行う）
株式上場取引所 東京証券取引所市場第二部
（証券コード：3392）
株主名簿管理人 〒103-8670
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

配当実績



会社概要

商号 デリカフーズ株式会社
英文社名 DELICA FOODS CO.,LTD.
設立 平成15年4月1日
資本金 759,755千円
従業員数(連結) 180名(他、平均臨時雇用者数771名)
本店所在地 〒121-0064
東京都足立区保木間二丁目29番15号
本社事務所 〒121-0064
東京都足立区保木間一丁目23番2号

役員 (平成20年6月26日現在)

代表取締役社長	館本 勲 武	取締役	大崎 善保
常務取締役	鬼頭 利光	常勤監査役	白石 俊夫
常務取締役	小笠原 真清	監査役	山口 隆
取締役	澤田 清春	監査役	田中 清隆
取締役	杉 和也		

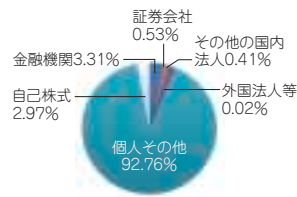
株式状況

発行済株式総数 15,605.92株
株主総数 1,434名

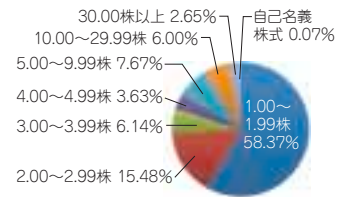
大株主

館本 勲武	6,272.00株	岡田 和夫	391.00株
岡本 高宏	724.00株	岩崎 泰次	380.00株
従業員持株会	559.00株	野村 五郎	306.00株
デリカフーズ(株)	463.14株	高山 幸久	240.78株
鬼頭 利光	432.00株	館本 篤志	198.00株

株主別分布状況



所有株式数別分布状況



デリカレポート

第5期事業報告書

平成19年4月1日～平成20年3月31日

デリカフーズ株式会社

東証2部 証券コード：3392

Fresh! & Speedy!!

Delica

ホームページ
<http://www.delica.co.jp>



Delica Report

デリカの志詩(うた) (大根の詩)

大根はデリカフーズです

大根は、
生よし、煮てよし、漬けてよし
葉よし、根よし、すべてよし
だから大根はデリカフーズです

デリカフーズは大根です

大根は野菜の代表です

中央アジア

千年以上も昔に中国を経由して

日本に土着しました

春の七草

～ずずな、ずずしろ、せり、なずな、
ごきょう、はこべ、ほとけのざ～

大根はずずしろ(清白)です

清らかな心が洗われる感じがします

白はどんな色にも染め上げることができます

お客様、仲間、誰れの意見も素直に謙虚に

聞くことができます

だからデリカフーズは大根です

デリカフーズは大根役者です

大根の“しろ”と素人の“しろ”とから

生まれた二流の役者です

主役を引き立てる脇役に徹し

謙虚にひたすら努力する役者です

あるときは農夫として

あるときは科学者として

あるときは哲学者として

またあるときは詩人として

汗を流しつつ、夢を追い続ける大根役者です

投資家の皆様へ

皆様におかれましては、平素よりデリカフーズグループをご支援ならびにご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

日本国民の食生活における「野菜」の重要性は年々増大しております。国民医療費約24兆円(2004年度の一般診療医療費)のうち、約3割を生活習慣病が占めています。この膨大な医療費削減のため、平成20年4月から、生活習慣病予防のための新しい健診(特定健診)と保健指導(特定保健指導)が始まりました。「メタボリックシンドローム」という言葉も広く知られるようになり、全ての国民が健康で長生きできるよう、我々一人一人が日々の生活習慣、特に「食事と運動」を見直す時期が来たといえましょう。

野菜には多くのビタミン、ミネラル、酵素、補酵素、微量栄養素が含まれております。当社グループは「野菜の力」抗酸化力、免疫力、解毒力の研究を進めております。野菜の力は産地や品種、栽培方法によって異なり、また同じ条件でも旬の時期の野菜はとて豊富な力を持っていることがはっきりと分かりました。当社グループは野菜の力を数値化し、消費者の皆様に分かりやすく表示して販売できるようにしたいと考えています。

日本人に必要な栄養素は日本の土にあり、その健康な土地から出来た食べ物(野菜)を食べる事で、真の意味で健康になることができると考えております。そのために生産者の方々と健康な土作りから中身の充実した野菜作りまで一緒に進めております。

当社グループは、医食農を通して日本の環境を考え、そして日本人の健康を考えるために、日々精進して参りたいと思います。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 鵜本 勉 氏

グループ体制

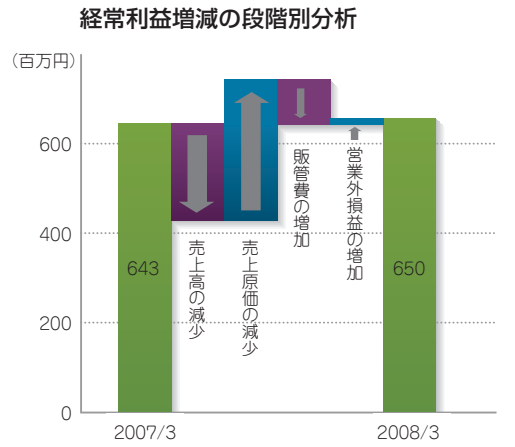


事業概況

当社グループは、消費者の安全安心を求める声に応えるため、原産地表示を含んだ食品表示の強化を図っています。生産者-当社グループ-顧客との三者一体の経営基盤を活かし、義務化されていない部分に対しても積極的に取り組んでおります。また、外食産業の中国産野菜から国産野菜への切り替えも、柔軟に対応して参りました。

当期は、大阪デリカフーズ(株)兵庫工場の立上げを計画通りに成功させることができました。これにより、好調なファーストフードの顧客に対応することができました。また、加熱加工野菜の需要に応じて、12月には東京デリカフーズ横浜センターの本格稼働ラインに先行投資をいたしました。投資効果は来期になる予定です。

当期は全般的な野菜価格の低落と、既存顧客の売上減少が新規顧客の獲得を上回ったことが影響し、連結売上高の予算を達成することができませんでした。また、法人税法の改正により減価償却費が予定よりも増加したことや、石油価格高騰の影響により物流費、資材費が高騰したことが利益を圧迫しましたが、ジャストインタイム方式等の経営努力によって経費削減し、経常利益を増大させ、予算を概ね達成することができました。



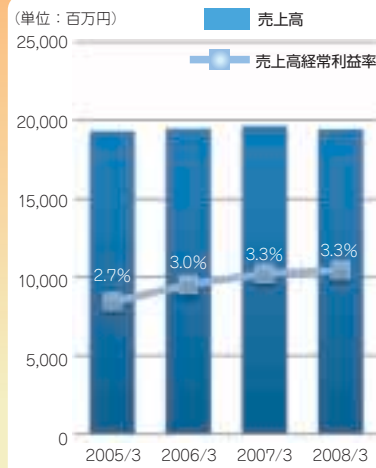
今後の見通し

次期の業績見通しにつきましては、当社グループの生産者-デリカフーズグループ-ユーザーの連携の仕組みにより培った経験を活かし、新たな販売チャネルの開拓や、過熟野菜の本格稼働の実施を計画しております。また、東京デリカフーズ(株)の東京センターにおける新工場設立に関して経費の増大、不動産取得税(特別損失)、有利子負債による利子の増大がありますが、新規顧客獲得による売上増大、作業の効率化によって、連結売上高20,100百万円、連結経常利益650百万円、連結当期純利益370百万円を見込んでおります。

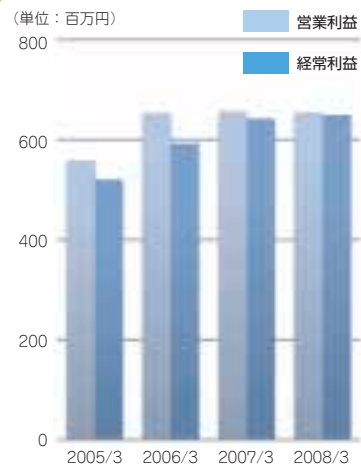
また、将来に向けての研究開発は、今後も継続し、アメリカの抗酸化力表示の流れに沿って、当社は日本の野菜における抗酸化表示の「さきがけ」となりつつあります。研究開発を継続的に行うことによって、野菜の中身評価によるブランド化販売戦略の実現化に近づいて参りました。今までの当社の研究が評価される時期と考えております。



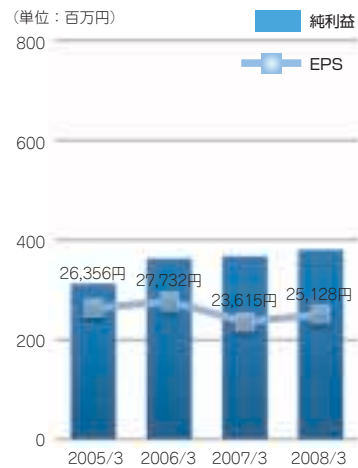
売上高／売上高経常利益率



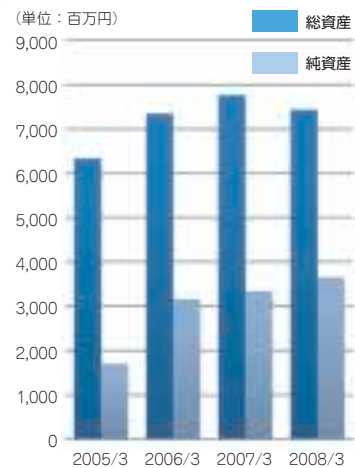
営業利益／経常利益



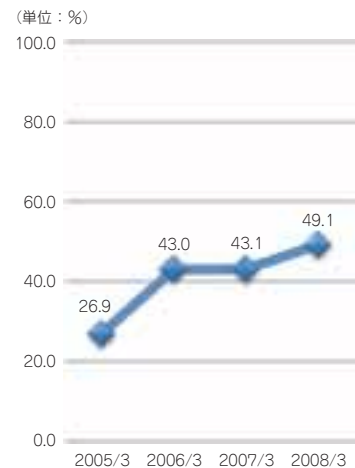
純利益／EPS



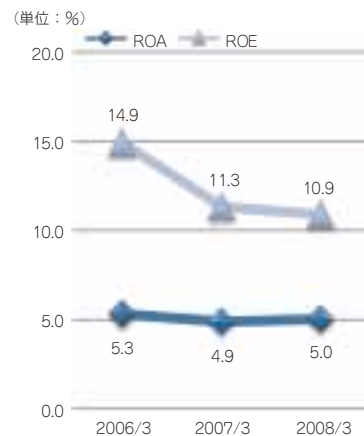
総／純資産



自己資本比率



ROE／ROA



2005年6月30日に株式分割(1:2)を行っております。
2005年3月期の一株当たり純利益(EPS)は過及修正した数値です。

Topics 1

兵庫工場本格稼働しました

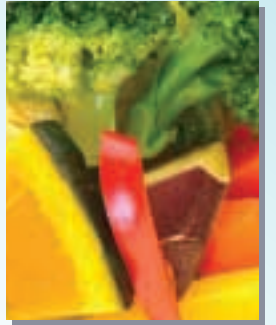
昨年3月、兵庫県加古郡稲美町に大阪デリカフーズ(株)兵庫工場を設立し、4月から本格稼働しました。グループのノウハウが活かされた衛生的で、野菜に適した工場です。



Topics 2

新しい提案「過熱野菜」

東京デリカフーズ(株)横浜センターに、高温水蒸気で野菜を焼く生産ラインが完成し、販売を開始しました。素材の味を生かし、さらに旨みを引き出します。まだまだ可能性を秘めた新商品です。



Topics 3

抗酸化研究室を設立しました

今年3月、デザイナーフーズ(株)は「名古屋医工連携インキュベータ」内に研究分室(抗酸化研究室)を設置しました。これによって、当社グループで7年間研究を続けてきた「野菜の抗酸化力」の立証が加速し、個々の野菜が持つ力を数値で表示できる時代に向けて大きく前進します。



Topics 4

野菜塾拡大版を実施しました

グループ各社で、お客様、生産者の方々、大学・研究機関の方々などを対象に定期的に野菜の勉強会を行っていますが、昨年9月に品川にて、大規模な健康野菜塾を行いました。アメリカでの食品抗酸化力表示の流れを受け、国内での今後の取り組みを始めとする「医・食・農 連携の時代」をテーマにセミナーを行いました。



Topics 5

「ベジワイン」発売中です

鶴見酒造様と名古屋デリカフーズ(株)とのコラボレーションで、野菜をまるごと使った、とってもLOHASな野菜ワインができました! 百貨店や、インターネットショップなどで販売しています。



Fresh! & Speedy!!

私たちは、新鮮野菜を
デリバリーする (配達) 八百屋です。

デリカフーズは農業と科学者の目を持った業務用の八百屋です。
産地からデリカフーズに野菜が届くまでは、生産者の方と一緒に美味しく
栄養がギュッと詰まった野菜作りに「農業の目」を持って、取り組んでいます。



デリカフーズに届いた野菜は、保存、カット技術、包装、配送に至るまで
「科学者の目」を持って、お客様にお届け致します。
野菜は生き物、365日お客様のご要望に応じて、毎日野菜をお届けします。
この他にも野菜の栄養分析や残留農薬検査、メニュー提案や勉強会も行っております。



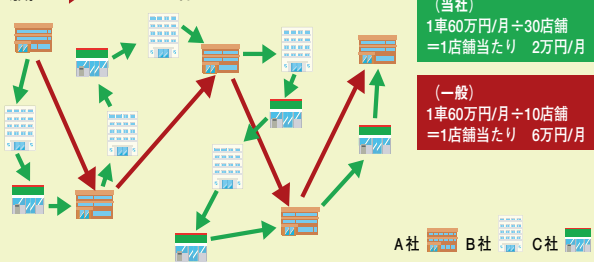
Point
1

365日、各店舗配送機能

必要ときに必要な量を店舗ごとに届ける配送網。東京・大阪・
名古屋など主要なエリアに張り巡らした物流網を持つ。
チルド物流 (野菜を常温帯からチルド帯へ) 配送効率 (定時定
期便)

■参考例：配送ルート図

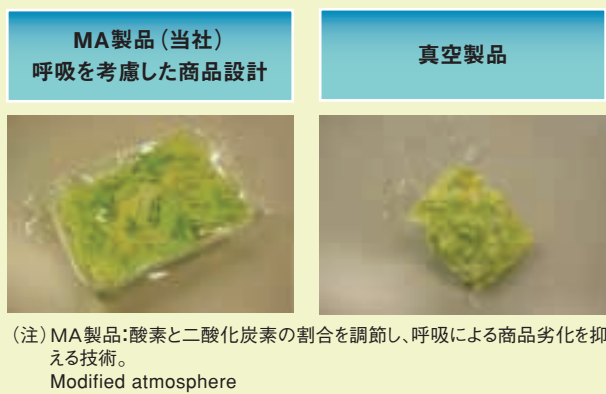
(当社) → チェーン店顧客A社、B社、C社に配送した場合
(一般) → チェーン店顧客A社だけに配送した場合



Point
2

鮮度を保ったまま野菜を運ぶ技術力

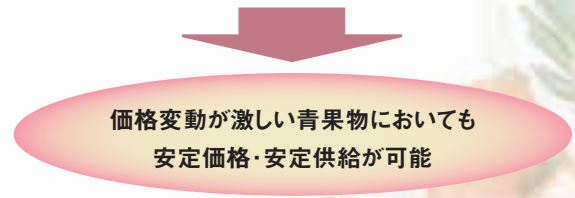
「野菜の生理」を研究し、鮮度の良い野菜提供。
鮮度を保つためのカット野菜鮮度技術・パッケージ技術、運搬方法。



Point
3

価格管理機能

外食・中食産業のお客様の必要量を把握しているため、契
約産地と作付面積や価格を前もって決めることが可能。



Point
4

産地と外食・中食をつなぐ情報流通機能

外食・中食産業の売れ筋商品を契約産
地の生産者に伝え、産地活性化のお手
伝いをしています。また、契約産地の新商
品を外食・中食産業に提案し、差別化商
品・ヒット商品作りを目指しております。写
真の「ルッコラ」はその一例です。当社が
先駆けて、現在では広く普及しました。



デリカフーズは野菜の全てを熟知し、
顧客のニーズに応じてまいります。



健康と環境



野菜の機能

抗酸化系 いちご キウイ トマト かぼちゃ ほうろく草 緑黄色野菜フルーツ	老化防止 生活習慣病予防
免疫系 レタス 大根 パセリ じゃがいも 白菜 淡色野菜	がん予防 抗アレルギー
解毒系 わさび にんにく しょうが キャベツ ブロッコリー アブラナ科 ユリ科	身体機能回復 新陳代謝活性

外食・中食・生産者様との勉強会の開催
「健康野菜塾」

旬の野菜、こだわり野菜の展示

食育・食の改善
啓蒙活動
「加熱加工野菜販売開始」

医療費削減
「日本人に不足している
栄養を健康な野菜から！」

野菜を形から
中身の評価へ
「野菜の抗酸化力・
免疫力・解毒力を測る」

加熱加工野菜の開発

野菜の非破壊評価測定機

抗酸化力
免疫力
解毒力

形から、中身
(野菜の力) 評価へ

生産者と流通、
消費者のスクラム
「安心安全と情報をお届けします」

農薬ポジティブリスト制
原産地表示
JGAP

農業は酸素製造業
「水資源・耕地・
環境を守る」

青果物ロス削減
「生産地から流通で
発生するロスの削減」

野菜残渣(生ゴミ)
リサイクルシステム
構築

デリカフーズは
農業の発展に貢献します。

ゼブラフィッシュによる
野菜評価・システム構築中
抗酸化力・免疫力・解毒力を分析

野菜を与えて効果を調べる

東京・名古屋・大阪で本格稼働

野菜循環型システム
工場、レストランから出る
生ごみを堆肥化・肥料化

ITを利用した情報管理

在庫・仕入・発注システム構築へ



.....

**デリカフーズグループは、
地球環境にやさしい循環型の
事業を目指しています。**

.....

畑で採れた新鮮健康な野菜を、
お客様のもとへお届けしています。
より良い野菜を栽培するために、
野菜や土壌を研究分析し、
その結果を、農家さんに還元しています。
野菜残渣も、畑に帰して、
次の世代の野菜栽培に生かしています。

連結貸借対照表(要旨)

		(単位：千円)				(単位：千円)		
科 目	第4期 (平成19年 3月31日)	第5期 (平成20年 3月31日)	科 目	第4期 (平成19年 3月31日)	第5期 (平成20年 3月31日)	科 目	第4期 (平成19年 3月31日)	第5期 (平成20年 3月31日)
(資産の部)			(負債の部)					
流動資産	4,396,419	3,874,634	流動負債	3,398,911	2,586,163			
現金及び預金	2,037,155	1,646,079	支払手形及び買掛金	1,448,903	1,224,836			
売掛金	2,230,957	2,101,807	短期借入金	610,000	430,000			
たな卸資産	66,275	66,718	1年内返済予定長期借入金	269,019	199,419			
繰延税金資産	55,733	44,787	未払法人税等	155,006	114,136			
その他	25,532	34,560	未払金	557,410	521,421			
貸倒引当金	△19,235	△19,319	未払費用	47,624	20,955			
			賞与引当金	70,316	54,972			
			工場閉鎖費用引当金	4,385	—			
固定資産	3,362,340	3,557,037	設備支払手形	194,815	—			
(有形固定資産)	2,906,815	3,115,133	その他	41,431	20,421			
建物及び構築物	1,315,848	1,319,005	固定負債	1,017,648	1,194,237			
機械装置及び運搬具	204,524	181,714	社債	10,000	—			
土地	1,337,008	1,454,692	長期借入金	939,968	1,145,299			
その他	49,433	159,720	退職給付引当金	53,976	48,238			
			その他	13,704	700			
(無形固定資産)	39,350	39,717	負債合計	4,416,559	3,780,401			
			(純資産の部)					
(投資その他の資産)	416,174	402,187	株主資本	3,342,149	3,669,536			
投資有価証券	126,564	119,786	(資本金)	759,755	759,755			
保険積立金	83,559	96,867	(資本剰余金)	1,591,242	1,591,242			
繰延税金資産	42,647	45,705	(利益剰余金)	1,106,924	1,432,961			
その他	200,971	154,876	(自己株式)	△115,773	△114,423			
貸倒引当金	△37,568	△15,048	評価・換算差額等	51	△18,266			
			(その他有価証券評価差額金)	51	△18,266			
			純資産合計	3,342,200	3,651,270			
資産合計	7,758,759	7,431,672	負債及び純資産合計	7,758,759	7,431,672			

流動資産は、現金及び預金が391百万円減少したこと、前期に金融機関の休日の関係で増加した売掛金が平常に戻り129百万円減少したことなどにより、11.9%減少しました。

固定資産は、名古屋デリカフーズ(株)子宝工場隣接地購入により土地が117百万円増加したこと、東京デリカフーズ(株)の新工場設立準備などにより、その他の有形固定資産が110百万円増加したことなどにより5.8%増加しました。

流動負債は、前期に金融機関の休日の関係で増加した支払手形及び買掛金が平常に戻り224百万円減少したこと、大阪デリカフーズ(株)兵庫工場設立のために発生した設備支払手形194百万円が決済により減少したこと、短期借入金が180百万円、一年以内返済予定の長期借入金が69百万円それぞれ減少したことなどにより、23.9%減少しました。

固定負債は、金融機関からの借入れにより、長期借入金が205百万円増加したことなどにより、17.4%増加しました。

純資産は、利益剰余金が326百万円増加したことなどにより、9.2%増加しました。

連結損益計算書(要旨)

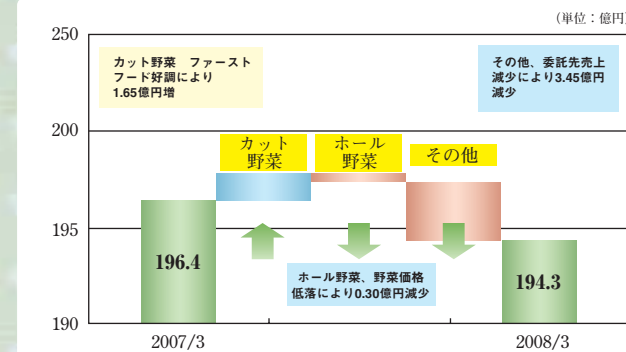
		(単位：千円)	
科 目	第4期 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	第5期 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	
売上高	19,635,991	19,425,748	
売上原価	14,761,038	14,481,806	
売上総利益	4,874,952	4,943,942	
販売費及び一般管理費	4,218,125	4,289,242	
営業利益	656,826	654,700	
営業外収益	20,689	28,704	
営業外費用	34,929	33,575	
経常利益	642,587	649,829	
特別利益	15,291	5,259	
特別損失	16,015	5,533	
税金等調整前当期純利益	641,863	649,554	
法人税、住民税及び事業税	278,889	248,642	
法人税等調整額	△4,854	20,269	
当期純利益	367,827	380,642	

連結株主資本等変動計算書

第5期(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成19年3月31日残高	759,755	1,591,242	1,106,924	△115,773	3,342,149	51	3,342,200
連結会計年度中の変動額	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△52,997	—	△52,997	—	△52,997
当期純利益	—	—	380,642	—	380,642	—	380,642
自己株式の取得	—	—	—	△1,146	△1,146	—	△1,146
自己株式の処分	—	—	△1,607	2,497	889	—	889
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△18,318	△18,318
連結会計年度中の変動額合計	—	—	326,036	1,350	327,387	△18,318	309,069
平成20年3月31日残高	759,755	1,591,242	1,432,961	△114,423	3,669,536	△18,266	3,651,270

売上高(連結) 増減の部門別分析



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

		(単位：千円)	
科 目	第4期 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)	第5期 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	559,220	362,795	
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△452,929	△569,150	
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△492,725	△117,513	
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	
V 現金及び現金同等物の減少額	△386,434	△323,868	
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,812,163	1,425,729	
VII 現金及び現金同等物の期末残高	1,425,729	1,101,860	

売上高(連結)構成比

Sales Composition

今後の戦略

Strategy

部門別売上高(連結)構成比

当社グループの事業は、青果物事業ならびにこれらの付帯業務の単一事業であり、
 外食産業・中食産業向けにホール野菜の販売、カット野菜の製造・販売等を行っております。

連結売上高合計 19,425百万円

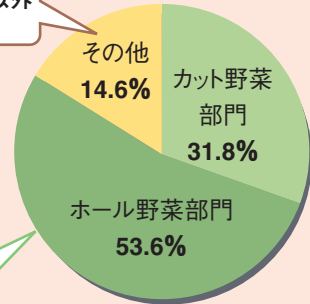
●その他部門

委託先の売上減少のため、
 2,829百万円(前年同期比
 10.9%減)となりました。



丸ごとの野菜

卵・豆腐など野菜以外の
 商品・委託先



●ホール野菜部門

当期の全般的な野菜価格の低落と、既存顧客の売上
 減少が影響し、売上減となりました。この結果、売上高
 は10,416百万円(前年同期比0.3%減)となりました。



業務用カット野菜

●カット野菜部門

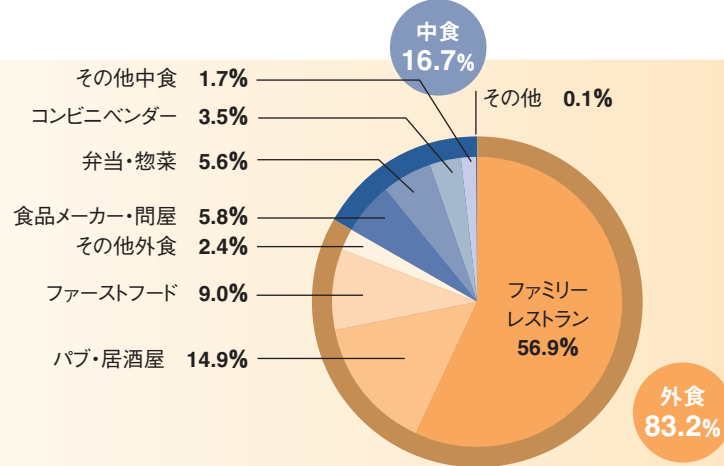
当社グループの顧客のファーストフードの好調によ
 って売上を増大することができました。しかし、外食産業
 の中国野菜の使用の取りやめによって、国産野菜への切り替えが原価率
 の上昇に影響しました。この結果、売上高は6,179
 百万円(前年同期比2.7%増)となりました。

(参考)業種別売上高(連結)構成比

外食産業の売上は
 前期の85.1%から1.9ポイント減少し、83.2%となりました。

中食産業の売上は
 前期の14.8%から1.9ポイント増加し、16.7%となりました。

外食	(%)	中食	(%)
ファミリーレストラン	56.9	食品メーカー・問屋	5.8
パブ・居酒屋	14.9	弁当・惣菜	5.6
ファーストフード	9.0	コンビニベンダー	3.5
その他	2.4	その他	1.7
計	83.2	計	16.7



Strategy・・・1

野菜と果物の抗酸化力表示

アメリカでは抗酸化力表示が始まりました。日本では当社グループが
 8年前から野菜や果物の抗酸化力の分析を行い、莫大なデータが
 蓄積されました。日本での抗酸化力表示の“さきがけ”になりたいと
 思います。

Strategy・・・2

「過熱野菜」の販売力強化

野菜を当社独自の製法で加熱した野菜の販売を開始しました。こ
 の商品の特徴(栄養価を維持など)を説明し、販売拡大に向けて取
 り組んでおります。

Strategy・・・3

工場および物流センターの設備投資

昨年の兵庫工場立上げによって西日本の
 顧客対応の準備が整いました。
 次は日本最大のマーケットである首都圏に
 対応すべく東京の新工場建設準備に入
 ります。

Strategy・・・4

販売先(お客様)と仕入先(生産者、 荷受と仲卸)との協力体制強化

生産者と中間物流業者との連携によって、
 より鮮度が高くて、より安心・安全な野菜を
 お客様にお届けできるように情報力・技術
 力・ネットワークの力を上げております。

Strategy・・・5

新しい業態へ販売の取組み

これまでの野菜の中身分析のデータをもと
 に、野菜の販売方法の開発に取り組んでお
 ります。人間に必要な「野菜の力」(抗酸化
 力・免疫力・解毒力)をより解りやすく、表示
 ・啓蒙して販売チャンネルを広げていきたく
 と考えています。

デリカフーズのCSR活動

私たちは野菜に感謝しています。

農業

野菜の価値が形や大きさで決まる仕組
 みのままでは、中身の良い野菜を作っ
 ても、価格競争で負けてしまいます。当社
 グループは野菜の中身評価に取り組み、
 中身の良さで野菜の価値が決まる仕組
 み作りを通じて日本の農業発展を目指
 します。

健康

野菜の力(抗酸化力・免疫力・解毒力)
 を解明するとともに、おいしく、食べやす
 い組み合わせや調理法等を研究し、健
 康な食生活の提供に貢献します。

食の安全安心

野菜の入荷・加工・流通過程全てにお
 いて低温を維持する「コールドチェーン」
 を徹底し、野菜に負荷をかけずに新鮮さ
 を保ちます。また、原産地表示に積極的
 に取り組む、安全安心を求めるユーザー
 (顧客)に対応しています。

環境

大切な資源である野菜を最大限利用す
 る技術の開発と、残渣となった野菜を飼
 料や肥料にして、リサイクルを実施して
 います。

